

(別表第1)

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

### II.家族との支え合い

### III.地域との支え合い

### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年11月14日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3873500650
事業所名	グループホーム浜っ子
(ユニット名)	ひだまり
記入者(管理者)	
氏名	宮岡 真由美
自己評価作成日	令和1年10月28日

<p>【事業所理念】 あなたに笑顔で（自分がされていやなことではない） あなたの笑顔で（自信をもってもらう） あなたと笑顔で（その人らしい人生が送れるよう）</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①食事やおやつを利用者様と一緒に楽しむということで取組んだが、食事介助の利用者さんが複数名の為、職員の手を取られ、十分できたとは言えない。 ②看取りに向けた支援は、看取りの近い御家族様に、折に触れご意向を確認し、ご家族様の希望に沿った支援ができたと思う。また、頻繁にカンファレンスを行って職員間の情報を密にし、その時々での最善の支援について話し合った。 看取り終了後の、職員全員での振り返りは充分出来なかった。 ③運営推進会議の家族参加を目標にしたが、未達成に終わった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 17年の歴史を持つ事業所は、周辺に公共施設や商業施設が多い住宅地に建っている。旬の食材を使った手作りの料理を毎食各ユニットで調理し、摂食が困難な利用者にもゆとりと時間をかけて食事介助を行っている。家族の要望に応え、かかりつけ医や母体となっている医療機関と連携を密に取りながら、多くの利用者の看取りを行っている。幅広い年齢層で多様な勤務形態の職員が、話し合いを重ねながら良好なチームワークを形成してサービスの向上を目指している。経験豊かな職員が多く、利用者の笑顔を励みにして利用者本位のケアに努めている。</p>
--	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	家族さんからの聞き取りや入居前の施設の資料で個人情報の資料作成をしている。	○	/	○	利用者の思いや希望は、日常会話の中で聞き取っている。意思表示が困難な場合は、表情やしぐさから思いを汲み取り、ミーティングで情報を共有して推測している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	難しい場合は、家族さんに聞いてみたり選択出来る様内容を提案する工夫している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	限られたなかで(訪問される家族さん)のみで、話し合っている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日常時の会話の中で気になることは、記録し職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員同士連携をとり入居者さんの思いを見落とさないよう努めている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族さんからの、聞き取りや入居前の施設の資料で個人情報の作成を行っている。	/	/	○	入居時に利用者や家族から情報を聴取する際に、馴染みの暮らし方やこだわりを聞いて記録している。入居後新たに知り得た事柄については、「私の大切な事」メモに記載して職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居時の個人情報資料や日常生活の中で見極めて職員同士話し合っている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	記録に記入し気づいたことは、その都度職員間で話し合っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	日々、入居者さんを観察して職員同士話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	その人に合う声掛けを行い、入居者さんの思いに寄り添えるように職員同士で話し合っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	会話の中で、何を必要とされているのかを職員間で話し合い時には、家族さんも交えて話しあっている。	/	/	○	日常生活を送る上で困っていることを聞き取り、アセスメントシートを活用して整理し、生活課題が解決できるよう検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日常生活において、何が入居者さんにとっての大切なことなのかを話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランに支援内容として反映し更新時に検討している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	家族さんや入居者さんの意見を聞き、出来る限り、添えるようにしている。	/	/	/	サービス担当者会議には家族にも参加してもらい、職員が気づきや提案を出し合って具体的なサービス内容を検討している。医療情報は、受診記録や看護師からの情報を聴取して介護計画に反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族や主治医からアドバイスをうけたり変化あるごとに、対応している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	一年を通し行事(夏祭り、お正月)に参加出来るようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	病院の受診を家族さんにお願いしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	内容を把握、理解して、モニタリングシートを使い職員間にて共有している。	/	/	○	月に1回開催するカンファレンスで介護計画のモニタリングを行い、内容を把握して共有している。介護記録ファイルには介護目標や援助内容を記載したモニタリングシートを挟んでおり、職員は常に確認しながらケアを実施している。いつもと違う状態や表情、言葉は介護記録に具体的に記録し、職員の気づきや提案は介護日誌に記録して共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月評価を行い、内容に変化があればカンファレンスを行い、話し合っている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	こまめに介護日誌に記入し、重要なことは、職員全体で見逃しのないよう把握している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	職員が行ったことをその都度介護日誌に記入、より良いものになるよう、意見交換している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ケアプラン更新時に見直しをしている。変化があればその都度見直しをする。	/	/	◎	介護計画は6か月ごとにサービス担当者会議を開催して見直し、月に1回担当職員が実施状況をモニタリングしている。退院時等状態の変化がある場合は、その都度見直して現状に即した内容になるよう検討している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月一回支援内容を確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	家族さん、主治医に相談をし、意見を頂き作成をしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	日々、申し送りや個人記録に記入し必要に応じて、話し合いをしている。	/	/	○	月に1回カンファレンスを開催して検討しているほか、緊急時は随時話し合っている。検討した内容は会議録にまとめ、共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見が言えるよう一人一人に十分な時間、環境づくりをしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	日常業務に支障が出ないよう協力合っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	当日書記係がまとめを行い、資料を渡し内容を伝えている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送り聞きもれの無いよう職員間での確認をしている。	/	/	○	共有すべき情報は日誌や申し送りノートに記載し、出勤前に確認して日付を記入している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	出勤時に、タイムカード横に置いてある2ユニットの介護日誌にかならず目を通し、確認のサインを行っている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	当日、利用者さんの訴えがあれば、出来る限り沿うよう努めている。	/	/	/	洋服は、利用者の状況に応じて声をかけて選んでもらっている。日々を活動的に過ごせるようレクリエーション表を作成しており、利用者の気分や希望によって柔軟に変更している。職員は利用者の心が動くよう気分を盛り上げ、楽しく和やかな雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択し選んで頂くのではなく「〇〇しましょう?しませんか?」と伝えている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	御自身で、言って頂ける場を作れるよう努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者さんのペースに合わせるよう行っているが、時間が空すぎないよう気を付け声掛けも行う。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりにしている。	○	感情が一定のままにならないよう話しかけやしぐさに気を付けている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情やしぐさに気を配り見落としのないよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	トイレ、入浴、着替え時には、プライバシーに気を付けるよう心掛けている。	/	○	○	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように努めており、話しかける際は利用者の目線に合わせるよう心がけている。トイレ誘導時は、耳元でさりげなく声をかけるよう配慮している。入室時はノックと声かけを行い、承諾を得るようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	入居者さんに適した介護を心がけている。声掛け、対応、配慮に欠けてないか気をつけている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	回りに注意しながら、声掛けに気を配りタオルなども使って介助している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に居る居ないに関わらず、ノックをし声掛けしてから入っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	守秘義務誓約書を理解、確認したうえで業務にあたっている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	そのとき時にて、利用者さんとの会話の中でときおり知恵を頂くことがある。	/	/	/	他の利用者のことを気にかけて食事を促す声かけをしたり、励ましたりする利用者があり、利用者同士で助け合っている。職員は利用者の関係を把握し、トラブルにならないよう適宜仲介している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日常生活の上で声を掛け合って協力している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	職員が間に入り、趣味やレクリエーションを通して孤立しないよう努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	問題が起こった場合すみやかに間に入り周りに支障が出ないように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	施設に面会に来られる家族に聞き取りを行い、情報を把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入居者さんとの会話の中で情報を得るが聞き取りにくい場合もあり難しい。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	地域の行事に参加している。知人・友人は面会に来られる方と会う程度で会いに行く機会はない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	出来る限り、家族の名前を把握しておき、面会時名前を呼んで声掛けするように努めている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	体調・天候を考慮し近隣の散歩や買い物に同行するなどしている。	△	△	△	天気の良い日は体調をみながら事業所周辺を散歩して近隣住民と挨拶を交わしている。職員と一緒に買い物に行く利用者や毎日車いすで駐車場に降りて外気浴をする利用者もいる。駐車場にはベンチスペースがあり、憩いの場所になっている。職員はさらに日常的な外出の機会を増やして近隣住民と顔馴染みになれると良いと考えており、今後は重度の利用者を含め、積極的に戸外に出る機会を持つことを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援は、出来ていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	施設内にある花壇の花を見ながらおやつを食べてカフェ気分を味わっていただいている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	ご家族の協力の下で、外出をお願いしている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会や研修を通し、それらの情報を職員間にて共有し利用者さんに合うケアをおこなっている。				定期的にあセスメントを実施して利用者の能力を把握しており、新たにできることを発見した場合は申し送りノートに記載して共有している。家事を一緒にする中でできることを発見することもあり、利用者が持っている力を発揮して暮らせるよう支援している。また、ラジオ体操と嚙下体操を日課としており、身体機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚙下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人入居者さんに合わせた、食事の改善、リハビリ、マッサージなどを活用し、スムーズに日常生活がおくれる様努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	職員と一緒に日常の簡単な作業をして頂き出来る場所は、見守りのみで行っている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者さんの好きなこと、苦手なことを把握しておき、得意な分野では、声をかけるようにしている。				利用者一人ひとりの得意なことや好きなことを把握して笑顔を引き出せるよう支援している。調理の下ごしらえや洗濯物干し等の家事を手伝ってもらった際は、感謝の言葉を返して慰労の気持ちを伝えている。毎朝階下に降りて新聞を取り、ユニットに運んでくれる利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者さんに生きる意欲を持っていただけように、日頃より好きなものはないか？あればどのように工夫すればもっと喜んでくれるのかを考え、実行している。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	出来ていない。				

愛媛県グループホーム浜っ子

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	特に問題の無いものであれば、出来る限り本人さんの個性を大切にしている。				季節に合わない服装に気づいた時は、さりげなく声をかけて居室に誘導して着替えてもらっている。重度の利用者を含め、好みの衣服でその人らしさを保ちながら過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ご家族さんの協力の下よく利用されているものがあれば持ってきていただいている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	体調や気分、また四季に合っているか本人さんの気持ちも踏まえ行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	TPOに合わせた色彩、組合せに注意している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたり上げなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	声の大きさ声掛けに注意し、必要に応じて食食用エプロンも使用している。	○	○	○	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問理容にお願いしており、一人一人の要望に添えるよう努めている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	パジャマであっても好みの色を使い整容においてもこまめに、気をつけている。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事により、意欲と活力が増加するように努めてゆく。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△		料理の下ごしらえをさせていただいたり下膳など協力してもらっている。			○		
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△		簡単な作業が出来る方に、声をかけて、お手伝いをしていただいている。					
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○		家族からの聞き取りと基本情報を確認し把握している。					
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○		四季折々の野菜を使い盛り付けに気をつけている。苦手なものも食べて頂くよう工夫している。			○		
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○		その方にあった食べやすい方法にし細かく刻みつつも、目でみて楽しんで頂けるよう気を付けている。					
g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○		利用者さん一人一人に合った食器を考え、使用して頂いている。			○		
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×		食事介助を必要とする利用者さんが多い為職員と一緒に食べながらというのは難しい。			○		
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○		メニューを伝える等声掛けを行い、その時間を大切に頂けるよう努めている。	○		○		
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○		完食を目標に、一人一人に合わせた食事づくりをしている。					
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○		少ない場合、複数の種類を用意し、同時に声掛けも増やして対応している。					
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○		献立表を確認し献立がかぶらないよう、注意している。			○		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○		食品の期限、色、においを確認し、調理道具は熱湯消毒を行っている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解できている。毎食後の口腔ケアを実施している。	/	/	/	毎食後口腔ケアを実施し、利用者の口腔内の状況を把握している。異常の早期発見に努め、治療が必要な場合は歯科医の訪問診療を受けている。義歯は每晚洗浄して清潔が保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	日々のケアの中で状態を確認している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科の医師にお願いしている。医師、看護師より指導頂き職員間で、共有している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後義歯を洗浄し夕食後は義歯洗浄剤で除菌している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	御自身でケアが難しい場合は職員が介助している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	訪問歯科の医師にお願いしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	理解し知識は習得しているが利用者さんの尊厳を重視し介助しているのが現状です。	/	/	/	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中トイレで排泄できるよう支援している。夜勤者からの情報をもとに職員が話し合い、利用者の状態や時間に合わせて排泄用品を選択するよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している排便チェックを行い管理している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排便チェック表を活用している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排便チェック表を活用しこまめに、トイレ誘導を行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員同士で話し合い改善にむけて工夫をかさね取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	決めている時間だけでなく顔色、仕草に注意して早目の声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ご家族さんの意見も聞いて本人さんが快適な状態で生活出来る様努めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	その都度、利用者さんに合った使い分けを行っている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	リハビリ体操(運動)を活用し、水分をこまめに、取って頂き自然排便出来るよう努めている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	御気分、体調すぐれないときは、曜日を変えるなどして対応している。	◎	/	○	週に2回午前中に入浴しており、汗をかいた時はその都度シャワーで汗を流せるよう支援している。入浴の長さや温度は利用者の好みに合わせ、シャンプーや石けんは専用のものを用意して使用している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	急がせずに、利用者さんのペースに合わせよう努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	御自身が出来るところはして頂き、出来ない所を職員が介助する。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理には行わず、時間、曜日を変更したり、職員をかえたり工夫をする。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルで確認し可否を決定し入浴後も様子観察を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	こまめに、記録を取り職員間での情報共有をしている。				日中活動的に過ごす等、安易に薬剤に頼らず安眠できるようにしている。不眠が続く場合は、医師に相談して指示を受けている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	レクリエーションやリビングで(日中)過ごして頂く時間を増やしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	職員間で状態について何度も話し合い検討し主治医の指導に基づいて支援を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	時間配分に気を付け、希望される方には、休んで頂いている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	電話では聞き取りにくい方が多く、手紙のやり取りがあれば、お手伝いしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人さんより要望があれば、お手伝い出来るところは行う。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	要望があれば対応している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご本人が確認の後、家族さんに、届いたことを伝えている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	早急に対応が必要な場合は電話をして来ていただいている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	自己管理が難しいため、行っていない。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	職員が、立替金にて購入している。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	当施設では、原則おこなっていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	自己管理が難しいため入居時に家族さんに所持できないことを伝え必要なものがあればその都度、立替金対応している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	入所時お金の所持は、出来ないことを家族さんに伝えている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	立替金にて対応し家族さんにも明確に伝えている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	利用者さんのニーズに対応出来ているかこまめに話し合いをし家族さんと相談の上取り組んでいる。	◎		○	車いすを使用する利用者が外来受診する際は、介護タクシーを手配している。職員が馴染みの美容院へ送迎することもあり、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	日頃よりこまめに掃除をし季節の花を飾るように努めている。	◎	○	◎	玄関には花を生け、植木や長いすを設置する等、入りやすい雰囲気である。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	その季節に合った飾り付けや小物を用意し、掃除をおこなって、衛生面にも気を付けている。	○	○	○	共用空間は南向きで明るく広々とした空間に、カウンターキッチンといす席、ソファ席があり、ゆったりくつろげるようになっている。毎日清掃して環境整備に取り組んでいるほか、車いす移動の妨げにならないよう整理整頓しており、清潔感のある空間となっている。廊下壁面には職員と利用者が作成した季節感のあるクラフト作品が飾られている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	その都度こまめに、掃除を行っている。	/	/	/		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	四季に合った飾り付けをしている。季節の会話を取り入れたり季節の花を飾って五感を感じていただくようにしている。	○	/	/		/
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	日常の会話の中で話が合ったり趣味があう方が居れば職員が間に入り、話を広げてみる。	○	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテン、扉を使用し、工夫している。	○	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室に可能な範囲で安全を確認したうえで使い慣れたものを設置している。	○	/	/	愛用の家具やテレビ、ラジカセ、冷蔵庫を自由に配置し、家族写真や作品を飾って居心地良くしている。利用者の状態に合った電動ベッドをレンタルし、起居動作を考えて設置する等配慮した居室となっている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	職員同士にて、話し合い、アイデア、工夫を出し合い危険のない範囲で出来ることを協力している。	/	/	○	事業所内はバリアフリー構造になっており、車いすを使用する利用者も自由に移動できるよう、共用空間には移動の妨げになるものを置かないようにしている。居室の門札は大きく、浴衣姿の利用者の写真が飾られている。片麻痺のある利用者が自力で布団を被ることができるようたたみ方を工夫する等、自立した生活が送れるようにしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	職員間で情報を共有し、フォローや介助のお手伝いが出来る様努めている。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ケガのないように気を配り安全性を充分検証した上で行っている。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員全体理解している。利用者さんの安全面を考慮し施錠を行っている。	◎	◎	△	職員は玄関等の施錠は拘束になることを理解しているが、建物の構造上ユニット出入口が死角となるため、安全に配慮して施錠しており、その都度職員が付き添って開錠している。見守り体制がとれる時間帯に開錠して利用者と行動を共にする時間を作る等、施錠をしないケアの方策を検討することを期待したい。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	×	自己管理、判断出来ない方が多く家族さんには入所時、カギをかける旨を説明理解していた。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	安全上のため常時施錠を行っている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個人ファイルにて情報を確認している。職員間で情報共有を徹底している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	かかりつけの病院主治医の指導の下、バイタルチェックや様子観察で異常があれば対応できるよう、記録している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	敷地内にある病院看護師に、何かあれば、相談出来る体制をとっている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	主治医の指導の下すぐ動ける様、お薬手帳、バイタル表など準備している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族さんと話し合い、意見を尊重して行っている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果を受診記録に記入し情報を確認し合い、家族さんと話し合いをしている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供、書類等、もれの無いよう職員間で確認し合い用意している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	家族さんや病院関係者と連絡を取るようになっている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	関係医療機関と良好な関係作りが出来る様努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	敷地内にある病院の看護師に体調に変化があれば相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	隣接している病院の院長に相談できるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日頃より仕事や顔色、食事量に変化がないかこまめに気を付けている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋、効能書きを確認し理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	職員が一週間毎に薬をセットし服薬チェックリストを作り職員間で共有している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	お顔を見ながら服薬を確認し、服薬後症状に変化がないか様子を見守っている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	主治医、看護師の連携を取りつつ職員同士では、急な変化がないか注意している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時に看取りに関して家族さんのお考えを伺い記録している状態の変化に応じてその都度、相談している。	/	/	/	母体が病院のため、看護師の指導を受けており、すぐに相談できる体制が整っている。事業所での最期を希望する利用者には、一人ひとりの主治医と連携して看取りを実施している。重度化した場合はその都度、家族と医療関係者等と話し合い、方針を共有しながら看取りケアを実施している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医の意見を元に、家族さんの意向にに沿って行っている。家族さんの意向にそって主治医や職員で話し合い方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の力量は把握出来ている。どのように対応出来るか話し合い見極めをおこなっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族間の事情に添えるよう配慮しながら連携をとっている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末に向けて、医療機関の指導をおおきながらその人らしく最後まで暮らせる支援が出来る体制作りにも努めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	何かあれば、その都度、連絡を取り不安が少なくなるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	役場や医療機関の情報外部への研修参加社内研修の場を持ち学んでいる。利用者の体調管理にも気を付けている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルを作成、施設内での勉強会を行うが十分とは言えない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	医療、行政からのメールや情報をもとに職員間での情報の共有を行っている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の情報収集をして職員間で情報の共有をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いは出来ているが、うがいは充分ではないので徹底するようにしたい。来訪の方には入り口に消毒液とマスクを設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
<b>II. 家族との支え合い</b>											
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	日頃より家族さんと話し合い意見や考えを聞き、協力出来るよう努めている。				比較的面会者が多く、面会時に行事の案内を行っているが、決まった家族の参加に限られている。今後は家族が関心を持てる行事を企画する等、多くの参加が得られる取組みを期待したい。2か月に1回ユニットごとにホームだよりを発行して利用者の暮らしの様子を伝えており、行事予定や伝達事項の欄を設け、意思疎通が図られるようにしている。運営面や職員の異動等については、家族に認識されていないため、今後は報告方法を工夫する等、理解が得られるよう取り組んで欲しい。家族の面会時には、職員が必ず声をかけて話しやすい雰囲気づくりをしており、利用者の様子を伝えたり、家族からの相談等を受けたりしている。		
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時間の中で、家族さんの都合も考えその中で、声掛けを行っている。						
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	外食や散策などを、家族さんが気軽に行えるよう職員から声掛けをしている。		x			△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	2ヶ月に1度ホーム便りを送り生活の様子をお知らせしている。体調の変化等は、電話をしてお伝えしている。			○			○
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	意見箱を設置しているが、何かあれば、直接伝えて来られることが多い。						
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入居前の生活状況を家族さんより聞き取り職員同士で確認し合っている。						
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	職員間にて確認もれのないようカレンダー、日誌を活用している。			x			△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族さんに毎月行方、行事を前もって連絡している。						
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ケアプランに基づき家族さんに説明をし、利用者さんがより良い暮らしが出来るよう家族さんの希望を聞き話し合いをもっている。						
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	気軽に声をかけて頂けるように努めている来所された時は職員から声掛けをしている。						○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に文書で説明し納得していただいている。						
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居についてはカンファレンスの話し合いや家族さんへの説明をその都度行い記録に残している。転居先へ安心して移れるよう支援している。						
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明し納得して頂いている。料金改定時には文書により通達している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立段階では十分な説明は、されていない。設立後地域の人に理解が得られるよう努めている。	/	○	/	町内会に加入し、地域行事の情報を得て敬老会等に参加したり、神輿や獅子舞に来てもらったりしている。傾聴ボランティアや介護相談員、中学生ボランティアとも交流している。事業所の周辺には公共施設や商業施設が多く、外出の機会を増やすことで地域住民と交流する機会が増えることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶は職員全員が心がけ実践している。地域の行事参加・中学生の体験学習の受け入れをしている。	/	△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	定期的なボランティアの支援はあるが、増えてはない。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	利用者に面会する為に気軽に来られる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶をしたり会話をすることはあるが、立ち寄ってもらうことはない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	傾聴ボランティアの方の月二回の定期的支援がある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	一人ひとりの把握は、充分に出来てない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	取り組んではいるが充分ではない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	利用者・地域への参加はあるが、家族参加が出来てない。	x	/	x	運営推進会議は、町内会役員や民生委員、介護相談員、行政関係者が参加しているが、家族の参加が得られていない状況である。今後は家族の参加しやすい日程に調整する等工夫して欲しい。会議では、外部評価の取組み状況等について報告している。利用者の状況や活動内容等も報告して意見交換を行っているが、運営に活かせるような意見等はあまりないため、サービス向上に活かせる提案等が活発に得られ、利用者や家族等が関心を持てる魅力的な議題を検討する等、今後の取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	公表・報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議の議事録を公表している。その都度出た意見について職員間で共有しサービス向上に活かしているが報告はしていない。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加メンバーの方とも相談しながら配慮している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	リビングに置いて公表している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念をリビングに掲示している。ミーティング等で理念に基づいて実践出来ているか話し合っている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	リビングに事業所理念を掲示している。	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	年間計画を作成し研修受講出来るよう取り組んでいる。	/	/	/	代表者は年間計画を作成して研修を奨励しており、資格取得への助成制度も設けてサービスの質の向上に努めている。就労環境を整備し、多様な勤務形態で就労する職員が良好なチームワークを形成できるよう配慮する等、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	OJTの計画は立てているが、実行は遅れ気味である。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	給料水準や労働時間の向上に努めている。資格取得に向けての努力が評価に反映されるようにしている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	研修案内があれば参加しているが、充分とは言えない。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の力量・人間関係に配慮し勤務を組んでいる。	/	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で学んでいる。日々職員間で話し合い理解している。	/	/	/	虐待防止について外部研修で学び、研修内容を職員間で共有して周知している。不適切なケアに気づいた時はその都度注意喚起を行っているほか、話し合って検討する場を設ける等、対応方法や手順等を理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	年度末に一年を振り返り良かったこと・反省点・改善点を話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待については注意を払っている。発見した場合はマニュアルに基づいて対応している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に注意を払い点検している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	資料に基づき研修し正しく理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	カンファレンスや社内勉強会で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居時に家族さんに説明し理解して頂いている。変更があればその都度家族さんと話し合いをしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	社内研修で学んでいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば管理者・ケアマネが対応する				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談があれば支援が出来る体制にある。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルに沿って行動出来るよう職員全員で取り組んでいる。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	マニュアルや資料で勉強しているが訓練はしていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを作成しその都度、職員間で話し合い改善し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日ごろから予測・検討し未然に防げるよう努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルのもと対応について職員間で検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	迅速に対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	迅速に対応し家族さんが納得できるよう話し合いを行う。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	介護相談員さんに関わってもらっている。			○	利用者の要望は、家族や介護相談員の協力も得ながら汲み取るよう努めている。家族の要望や意見は、面会時に話しやすい雰囲気を作り、丁寧に聞くよう心がけている。管理者は、日常業務の中で職員の思いを汲み取っており、職員は意見や提案を言いやすい職場環境であると感じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置している。職員から声掛けをして普段から意見・要望が言いやすい関係作りを努めている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	公的な窓口の情報をリビングに掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	管理者を通じて職員の意見・要望を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員から出る意見・提案はその都度聞き支援に活かしている。			○	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回全員で自己評価に取り組んでいる。				運営推進会議で外部評価への協力依頼や報告を行っており、アンケートの回収率は高く、好意的なコメントの記載も多いが、十分に内容が伝わっていない現状が窺える。今後は報告方法を検討し、助言や提案を得てサービス向上につなげられるよう、事業所の取組みのモニターを依頼することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員全員で取り組むことで意識統一がされ学習の機会となっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し達成に向け取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	運営推進会議と家族さんには報告するが、モニターはしてもらっていない。	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	職員間の確認のみに終わっている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し訓練している。				法人内での災害時避難対応マニュアルを作成して職員に周知している。運営推進会議でも避難訓練について話し合い、定期的に訓練を通して消防署と連携を密にしているが、地域の防災訓練には参加できていない。今後は相互に訓練に参加し合うことで相互理解を深め、協力体制を構築していくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間問わず利用者さんが安全に避難出来るよう訓練している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	年二回消防署立会いの下訓練しているが合同の訓練は出来てない。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	参加出来てない。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	積極的な発信はしていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば応じる。		△	△	入居相談には応じているが、地域からの相談ニーズ対応は不十分のため、事業所の相談支援について地域に積極的にPRする取組み等を行って欲しい。地域包括支援センターが実施するグループホーム交流会には参加している。今後は地域関係機関等とネットワークを深めながら地域活動にも積極的に取り組み、地域から頼られケア拠点となる事業所を目指して欲しい。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	地方祭の時、神輿の休憩場所として開放している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学校の体験学習の受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	町や地域包括主催のイベントに参加している。			△	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和1年11月14日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3873500650
事業所名	グループホーム浜っ子
(ユニット名)	おあしす
記入者(管理者)	
氏名	宮岡 真由美
自己評価作成日	令和1年10月28日

<p>【事業所理念】 あなたに笑顔で（自分がされていやなことではない） あなたの笑顔（自信をもってもらう） あなたと笑顔で（その人らしい人生が送れるよう）</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①食事やおやつを利用者様と一緒に楽しむということで取組んだが、食事介助の利用者さんが複数名の為、職員の手を取られ、十分できたとは言えない。 ②看取りに向けた支援は、看取りの近い御家族様に、折に触れご意向を確認し、ご家族様の希望に沿った支援ができたと思う。また、頻繁にカンファレンスを行って職員間の情報を密にし、その時々での最善の支援について話し合った。 看取り終了後の、職員全員での振り返りは充分出来なかった。 ③運営推進会議の家族参加を目標にしたが、未達成に終わった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 17年の歴史を持つ事業所は、周辺に公共施設や商業施設が多い住宅地に建っている。旬の食材を使った手作りの料理を毎食各ユニットで調理し、摂食が困難な利用者にもゆとりと時間をかけて食事介助を行っている。家族の要望に応え、かかりつけ医や母体となっている医療機関と連携を密に取りながら、多くの利用者の看取りを行っている。幅広い年齢層で多様な勤務形態の職員が、話し合いを重ねながら良好なチームワークを形成してサービスの向上を目指している。経験豊かな職員が多く、利用者の笑顔を励みにして利用者本位のケアに努めている。</p>
---	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	ご家族や利用者ご本人の日常の行動、言動を注意深く見聞きし、把握に努めている。	○	/	○	利用者の思いや希望は、日常会話の中で聞き取っている。意思表示が困難な場合は、表情やしぐさから思いを汲み取り、ミーティングで情報を共有して推測している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご家族に話を聞いたりご本人に解りやすい言葉で聞くなどして最大限工夫している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族が中心だが来設の際には聞くように努めている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	「私の大切な事」メモを活用し職員全体で把握するようにしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	定期的カンファレンスや日頃の業務で共有に努めるが、時折職員の意向が強い場合がある	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時の情報やご家族からの情報を基に資料を作成し共有している	/	/	○	入居時に利用者や家族から情報を聴取する際に、馴染みの暮らし方やこだわりを聞いて記録している。入居後新たに知り得た事柄については、「私の大切な事」メモに記載して職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常の中でよく観察し職員同士で共有している	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	その都度、記録に詳しく記入する。また必要があれば職員間で話し合っている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	日々観察し、何か判明すれば記録に記入、職員間で話し合い検討している	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	各個人に合う声掛け、介助を心掛けている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の会話や動作から判断し、職員同士やご家族と話し合いながら検討している	/	/	○	日常生活を送る上で困っていることを聞き取り、アセスメントシートを活用して整理し、生活課題が解決できるよう検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	現状にとらわれず、日々改善策を模索している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	記録や申し送り、カンファレンス等で検討しケアプランの変更を行っている	/	/	/	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご家族やご本人、また職員同士でもよく検討し利用者さんの意向に沿う内容になっている	/	/	/	サービス担当者会議には家族にも参加してもらい、職員が気づきや提案を出し合って具体的なサービス内容を検討している。医療情報は、受診記録や看護師からの情報を聴取して介護計画に反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご家族や医療関係者からのアドバイス、また職員同士の気づきも含め、それに基づいて作成している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	施設内の行事(正月、夏祭り、クリスマス)や地域の行事(祭り)などには可能な限り参加してもらっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	病院受診はご家族さんにお願いしている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	モニタリングシートを介護記録の中に入れ目標や支援内容を把握している	/	/	○	月に1回開催するカンファレンスで介護計画のモニタリングを行い、内容を把握して共有している。介護記録ファイルには介護目標や援助内容を記載したモニタリングシートを挟んでおり、職員は常に確認しながらケアを実施している。いつもと違う状態や表情、言葉は介護記録に具体的に記録し、職員の気づきや提案は介護日誌に記録して共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月振り返りを行い、カンファレンス等で評価、改善に努める	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に詳しく記載し職員同士で共有している。重要なことは介護日誌の申し送りにも記入している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	新しく発見したこと、自分が試みたことは介護日誌の申し送りに記入し職員間で共有している	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ケアプラン更新時行う、また、変化があった場合はその都度、見直している。	/	/	◎	介護計画は6か月ごとにサービス担当者会議を開催して見直し、月に1回担当職員が実施状況をモニタリングしている。退院時等状態の変化がある場合は、その都度見直して現状に即した内容になるよう検討している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月一回モニタリングをして支援内容を確認している	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	ご家族や主治医と相談の上、変更、作成を行う	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	日々の記録や申し送りを徹底し、必要があれば話し合いの場を設けている	/	/	○	月に1回カンファレンスを開催して検討しているほか、緊急時は随時話し合っている。検討した内容は会議録にまとめ、共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員全員が意見を出し合えるよう取り組んでいる	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	会議の趣旨や重要性を伝え、協力し合って参加している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	当日(書記)係がまとめを行い、資料といっしょに口答にて対応している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	大切な事は必ず紙面に記載して記録し、共有に努めている	/	/	○	共有すべき情報は日誌や申し送りノートに記載し、出勤前に確認して日付を記入している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	出勤時に介護日誌の申し送り事項を読み、サインするようにしている	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	可能な限り意向に沿えるようにしているが、難しい場合は後日ご家族と相談する	/	/	/	洋服は、利用者の状況に応じて声をかけて選んでもらっている。日々を活動的に過ごせるようレクリエーション表を作成しており、利用者の気分や希望によって柔軟に変更している。職員は利用者の心が動くよう気分を盛り上げ、楽しく和やかな雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	日々声掛けを工夫し、ご本人に決定してもらうよう努めている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	ご本人の意思をなるべく尊重し、納得してもらうよう努めている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者の方一人一人に合った支援が出来る様、常に職員同士で話し合い実践している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	小まめに声掛け等行い工夫している。同じ目線で笑顔で声掛けをし、話しやすい雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	日々の出来事で気が付いたことは職員同士で共有し、常に気を配っている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	トイレ、入浴、着替え時には、プライバシーに気を付けるよう心掛けている。	/	/	○	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないよう努めており、話しかける際は利用者の目線に合わせるよう心がけている。トイレ誘導時は、耳元でさりげなく声をかけるよう配慮している。入室時はノックと声かけを行い、承諾を得るようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者さんにあった介助や声掛けを心掛けている	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	十分に配慮しながら介助している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	不在の場合でも入室の際は必ずノックをし声掛けをしている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	守秘義務誓約書を理解、確認したうえで業務にあたっている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんの何気ない話も注意深く聞き、知恵をかりる	/	/	/	他の利用者のことを気にかけて食事を促す声かけをしたり、励ましたりする利用者があり、利用者同士で助け合っている。職員は利用者の関係を把握し、トラブルにならないよう適宜仲介している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日常で利用者さんが助け合っているのを見ている。それに合った介助、介護を心掛ける	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員が間に入り、趣味やレクリエーションを通してコミュニケーションがとれるようにしている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り解決に努めている	/	/	/	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご家族に話を聞き、把握するよう努める				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	会話などで聞き取るようにしているが、難しい場合もある				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	行きつけの美容院に行っている程度で実践できていない				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	御家族さんや知人の方の顔を覚えて「○○さん」と職員から名前を呼んで挨拶するよう努めている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	可能な使用者さんに関しては、買い物に出掛けたり、散歩してもらったりしている				天気の良い日は体調をみながら事業所周辺を散歩して近隣住民と挨拶を交わしている。職員と一緒に買い物に行く利用者や毎日車いすで駐車場に降りて外気浴をする利用者もいる。駐車場にはベンチスペースがあり、憩いの場所になっている。職員はさらに日常的な外出の機会を増やして近隣住民と顔馴染みになれると良いと考えており、今後は重度の利用者を含め、積極的に戸外に出る機会を持つことを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	出来ていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	施設内の花壇の花を見たり、外の空気に触れてもらっている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	ご家族に協力して頂いている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会や研修を通し、それらの情報を職員間にて共有している				定期的にあセスメントを実施して利用者の能力を把握しており、新たにできることを発見した場合は申し送りノートに記載して共有している。家事と一緒にする中でできることを発見することもあり、利用者が持っている力を発揮して暮らせるよう支援している。また、ラジオ体操と嚙下体操を日課としており、身体機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚙下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	嚙下機能低下の方は刻み、とろみ等必要に応じて対応している。食事前に口腔体操をしている。DVDを利用したりハビリ体操を取り入れている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	洗濯物をたんでもらったり、簡単なことからしてもらうよう努めている		◎	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者さん一人一人の好きな事や好きな歌など職員同士で共有し、把握している				利用者一人ひとりの得意なことや好きなことを把握して笑顔を引き出せるよう支援している。調理の下ごしらえや洗濯物干し等の家事を手伝ってもらった際は、感謝の言葉を返して慰労の気持ちを伝えている。毎朝階下に降りて新聞を取り、ユニットに運んでくれる利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日々の行事やレクリエーション、誕生日会などを催し、楽しみや生きがいの創出に努めている		○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	出来ていない				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好みを尊重し、可能なら服を選んで頂いている				季節に合わない服装に気づいた時は、さりげなく声をかけて居室に誘導して着替えてもらっている。重度の利用者を含め、好みの衣服でその人らしさを保ちながら過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	ご家族の方と連携し、出来る限り行っている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	日々の体調に考慮し、それに沿った支援を行っている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節感や色彩、組合せに配慮している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	声掛けや介助に配慮している	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問理容を利用している。行きつけの美容院に定期的に行っている方もいる				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	なるべく清潔感のある、その人らしい服装を心掛ける			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事により、意欲と活力が増加するように努めてゆく。				3食をユニットの台所で手作りしており、献立は冷蔵庫にある食品を見て調理当番の職員が決めている。利用者には玉ねぎの皮むき等調理の下ごしらえや台拭き等の手伝いをしてもらい、月に1回は一緒に買い物に行っている。季節の食材を使った料理や行事食を取り入れて食事を楽しめるよう努め、誕生日にはケーキを作ってお祝いしている。茶碗や湯呑み、箸は使い慣れている専用のものを使用している。職員も一緒に食卓を囲み、和やかな雰囲気と同じ食事をしている様子が窺えた。食事を促す柔らかな声かけ等ゆったりとした食事介助の様子が印象的で、重度の利用者を含め、笑顔で楽しそうに食事を摂っていた。献立を考える際は、昼食が魚の場合は夕食を肉にする等たんぱく質の食品を交互に提供するようにしているほか、塩分を控えめにするよう配慮しており、定期的に話し合っって献立が重複しないよう工夫している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	簡単な前作業をお願いしたり食器を下膳してもらっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	買い物は利用者の方と出かける場合がある 軽い食器は下げてもらっている。職員に同行し一緒に買い物をする				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	家族からの聞き取り、基本情報にて確認、把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	食事やおやつ等で季節感を大事に献立を組んでいる			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	その方にあった調理方法を工夫し、食欲をそそるような盛り付けを心掛けている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを活用している。	○	利用者さん一人、一人に合った食器を考え、使用して頂いている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事介助や見守りの方が多くなり一緒に食べることが難しくなっている			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	メニューを伝えたり声掛けをこまめに行っている	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	その人のペースに合わせて、完食、また水分も多く取ってもらうよう配慮している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取が少ない場合、時間をずらしたり飲み物の種類を変えたり工夫している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立表を確認しメニューが重ならないようバランスを考え提供している			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	賞味、消費期限を確認している。調理道具はこまめに熱湯消毒と除菌を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	歯科医師の指導の下、勉強会や資料作成配布、情報の共有に努めている。	/	/	/	毎食後口腔ケアを実施し、利用者の口腔内の状況を把握している。異常の早期発見に努め、治療が必要な場合は歯科医の訪問診療を受けている。義歯は毎晩洗浄して清潔が保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時にこまめに確認している	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科の医師にお願いしている。医師、看護師より指導頂き職員間で、共有している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食事後の洗浄と夕食後のポリドントを実施	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	歯ブラシの状態や声掛けに注意している。自分でできない方は職員が介助し口腔内チェックをしている	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	訪問歯科の医師にお願いしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ご本人の意思も尊重し、よく注意しながら理解を深めている	/	/	/	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中トイレで排泄できるよう支援している。夜勤者からの情報をもとに職員が話し合い、利用者の状態や時間に合わせて排泄用品を選択するよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。食事を工夫したり運動をして便秘にならないように気を付けている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を活用し把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者さんの状態を把握し職員間で話し合いトイレでの自立支援をしている	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	職員同士で話し合い改善にむけて工夫をかさね取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を基に日々声掛けをしている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	入居時にご家族さんも含め、本人さんと相談し快適な状態で生活出来る様努めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	その利用者さんにあった最適なものを使用している	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分のこまめな補給と便秘に良い食物の提供を心掛けている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	入浴チェック表等を活用し気持ちよく入浴して頂くよう工夫している	/	◎	○	週に2回午前中に入浴しており、汗をかいた時はその都度シャワーで汗を流せるよう支援している。入浴の長さや温度は利用者の好みに合わせ、シャンプーや石けんは専用のものを用意して使用している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	利用者さんのペースに合わせよう努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	御自身が出来るところはして頂き出来ない所を職員が介助する。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	本人の意思を尊重し、時間や声掛けを変えている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタル計測をし可否を決めている。入浴中、入浴後の状態にも気を付けている	/	/	/	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録に記載し、情報を共有している				日中活動的に過ごす等、安易に薬剤に頼らず安眠できるようにしている。不眠が続く場合は、医師に相談して指示を受けている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中体操やレクリエーションを行い夜間よく眠れるよう配慮している				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	毎日の生活を把握し検討している。医師と連携を取りながら支援している			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	その人に合った休息を取ってもらうよう配慮している				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	電話は要望があれば行っている。手紙はしていない				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	可能な限り、支援している				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	要望があれば対応している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	手紙、葉書のやり取りがあまりない				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	早急に対応を迫られる場合職員が家族さんに電話をして来ていただいている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	自己管理が難しいため、行っていない。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	職員が、立替金にて、購入している。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	当施設では、原則おこなっていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	自己での管理は難しい。必要物は立替金ご家族に対応してもらっている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	入所時、お金の所持は、出来ないことを家族さんに伝えている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	立替金にて対応し毎月のご利用額と購入品を明確にお伝えしている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	なるべく本人の希望に添える様努力している		◎	○	車いすを使用する利用者が外来受診する際は、介護タクシーを手配している。職員が馴染みの美容院へ送迎することもあり、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
<b>(3)生活環境づくり</b>											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	日頃から清掃、飾り付けに注意している	◎	○	◎	玄関には花を生け、植木や長いすを設置する等、入りやすい雰囲気である。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節に合った飾り付けや小物など邪魔にならない程度に用意しつつ、掃除をおこなって、衛生面にも気を付けている。	○	○	○	共用空間は南向きで明るく広々とした空間に、カウンター式キッチンといす席、ソファ席があり、ゆったりくつろげるようになっている。毎日清掃して環境整備に取り組んでいるほか、車いす移動の妨げにならないよう整理整頓しており、清潔感のある空間となっている。廊下壁面には職員と利用者が作成した季節感のあるクラフト作品が飾られている。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	日々こまめに清掃を行っている	/	/	/		○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節にあった貼り絵や飾り付けを行い、楽しんでもらっている。壁に季節に合った歌詞カードを貼り、皆で歌えるようにしている	○	/	/		/	○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでの座席の位置などに配慮している	○	/	/		/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテン、扉を使用している	○	/	/		/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご家族とよく相談したうえで設置している	○	/	/	愛用の家具やテレビ、ラジカセ、冷蔵庫を自由に配置し、家族写真や作品を飾って居心地良くしている。利用者の状態に合った電動ベッドをレンタルし、起居動作を考えて設置する等配慮した居室となっている。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	職員同士にて、話し合い、アイデア、工夫を出し合い危険のない範囲で出来ることをして頂くよう努めている	/	/	/	○		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	職員で情報を共有し、日々話し合って工夫している	/	/	/			
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	可能な限り(危険のないのが原則で)配置している	/	/	/			
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員は理解している。利用者さんの安全を考え家族さんにも理解して頂いている	◎	◎	△	職員は玄関等の施錠は拘束になることを理解しているが、建物の構造上ユニット出入口が死角となるため、安全に配慮して施錠しており、その都度職員が付き添って開錠している。見守り体制がとれる時間帯に開錠して利用者と行動を共にする時間を作る等、施錠をしないケアの方策を検討することを期待したい。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	自己管理、判断出来ない方が多く家族さんには入所時、カギをかける旨を説明し理解していただいている。	/	/	/			
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	安全上のため常時施錠を行っている。	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	記録、申し送りや個人ファイル等で把握している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	かかりつけの病院、主治医の指導の下、バイタルチェックや日々の様子観察で異常があれば、その都度、対応できるよう、記録している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	隣接している病院看護師に、何かあれば、相談出来る体制をとっている。かかりつけ医や家族とも情報を共有している	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	主治医やご家族とよく相談し、体制を整えている	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご家族の意向を尊重し、行っている	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の内容を必ず記載し、職員間で共有している。また特記事項は申し送りに記載し、情報の共有を図っている。職員対応の受診の場合は家族さんに結果を報告している	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	必要な情報をまとめ資料提供している	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	ご家族や病院関係者と連絡を取り合っている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	良好な関係作りにも努めている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	隣接の病院医師、看護師、また訪問看護師とも連携し、何かあれば伝えて相談している	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	敷地内、隣接している病院の院長に相談できるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の健康状態をチェックし、記録に残すことで対応している	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋、効能書きを確認し理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬チェックリストを作り服薬ミスが無いよう努めている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	一人一人よく観察しながら確認している。また必要に応じてとろみ剤利用して服薬支援している	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	主治医、看護師の連携を取りつつ服薬後の急な変化がないか注意し記録している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時にご家族に確認、以降は状態に応じて相談を行っている	/	/	/	母体が病院のため、看護師の指導を受けており、すぐに相談できる体制が整っている。事業所での最期を希望する利用者には、一人ひとりの主治医と連携して看取りを実施している。重度化した場合はその都度、家族と医療関係者等と話し合い、方針を共有しながら看取りケアを実施している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医、ご家族とよく相談し、方針を共有している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	その都度現状を把握しどのように対応できるか職員で話し合っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	その都度ご家族と話し合い、理解を得ている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	利用者が最後までよりよい生活が出来る様主治医と連携を取りながら支援していく体制作りが整うよう努めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	出来る限りの連絡や相談を行い、支援に努めている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	役場、医療機関よりの、情報や外部研修を行い利用者の体調管理にも気を付けている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染マニュアルはあるが訓練は出来ていない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	各情報をこまめにチェック、医療機関からの情報も気を付けて職員間で共有している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	役場との連携、情報を収集し対応している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員間で徹底、来訪者の方もマスク着用、手洗い消毒をお願いしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入居時のケアプランの理解や日々ご家族の方との会話にて関係を築いている	/	/	/	比較的面会者が多く、面会時に行事の案内を行っているが、決まった家族の参加に限られている。今後は家族が関心を持てる行事を企画する等、多くの参加が得られる取組みを期待したい。2か月に1回ユニットごとにホームだよりを発行して利用者の暮らしの様子を伝えており、行事予定や伝達事項の欄を設け、意思疎通が図られるようにしている。運営面や職員の異動等については、家族に認識されていないため、今後は報告方法を工夫する等、理解が得られるよう取り組んで欲しい。家族の面会時には、職員が必ず声をかけて話しやすい雰囲気づくりをしており、利用者の様子を伝えたり、家族からの相談等を受けたりしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時にはその都度声掛けをし、利用者さんの様子をお伝えしている。いつでも都合の良い時に来ていただくよう声掛けしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	クリスマス会等参加して頂くよう声掛けはしているが決まった家族さんのみの参加にとどまっている。	/	×	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	二か月に一度、日常の状態や行事の参加時の写真や手紙を送封し、何か変化がある場合、その都度、電話をしている。	/	○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	意見箱を設置しているが直接ご意見をいただくことが多くその都度対応している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族さんが来所された際、利用者様子を必ずお伝えし、家族さんと一緒に話し合いの場を作っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	職員間にて、確認もれのないよう、カレンダー、日誌を活用している。	/	×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事の声掛けはしているが、参加は少なく報告のみの現状になっている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ケアプランや定期的なカンファレンスの情報をご家族と共有、相談している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時こちらの情報を伝え、ご家族とこまめに話し合いをしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に文書で説明し納得して頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居についてはカンファレンスでの話し合いや家族への説明を行い明確に記録に残している。退居先へも安心して移れるよう支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明をし納得して頂いている。改定時には文書により通達している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立段階には十分な説明はなされていない。設立後は理解を得られるよう努めている。	/	○	/	町内会に加入し、地域行事の情報を得て敬老会等に参加したり、神輿や獅子舞に来てもらったりしている。傾聴ボランティアや介護相談員、中学生ボランティアとも交流している。事業所の周辺には公共施設や商業施設が多く、外出の機会を増やすことで地域住民と交流する機会が増えることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内行事への参加・中学生の体験学習受け入れを行っている。日常的な挨拶は職員全員心がけ実践している。	/	△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	定期的にボランティアの方が支援して下さるが、増えてはない。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	利用者に面会する為に気軽に来られる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	ご挨拶をしたり会話をすることはあるが、日常的なおつきあいは出来てない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	傾聴ボランティアの方々の月二回の支援や中学生のボランティア活動支援がある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	一人ひとりの把握は充分に出来てない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	取り組んではいるが充分ではない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	利用者や地域の方の参加はあるが家族参加がない。	×	/	×	運営推進会議は、町内会役員や民生委員、介護相談員、行政関係者が参加しているが、家族の参加が得られていない状況である。今後は家族の参加しやすい日程に調整する等工夫して欲しい。会議では、外部評価の取組み状況等について報告している。利用者の状況や活動内容等も報告して意見交換を行っているが、運営に活かせるような意見等はあまりないため、サービス向上に活かせる提案等が活発に得られ、利用者や家族等が関心を持てる魅力的な議題を検討する等、今後の取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	公表・報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議の議事録を公表し職員間で共有しサービス向上に活かしているが結果については報告していない。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加メンバーの方とも相談しながら配慮している。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	リビング窓口に設置し公表している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	見えるところに設置している。社内研修・カンファレンスの都度理念に基づいた支援が出来るか話し合っている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	目につきやすいところに掲示している。	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	年間計画を作成し研修が受けられるよう取り組んでいる。	/	/	/	代表者は年間計画を作成して研修を奨励しており、資格取得への助成制度も設けてサービスの質の向上に努めている。就労環境を整備し、多様な勤務形態で就労する職員が良好なチームワークを形成できるよう配慮する等、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	OJTの計画を作成し取り組んでいるが充分ではない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	給与水準・労働時間の向上に努めている。研修や資格取得を目標とし努力が評価に反映される仕組みになっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	研修があれば参加するようにしているが、相互研修はしていない。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	人間関係や職員の力量をふまえ勤務を組んでいる。	/	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で繰り返し学んでいる。虐待や不適切なケアについて日々話し合っている。	/	/	/	虐待防止について外部研修で学び、研修内容を職員間で共有して周知している。不適切なケアに気づいた時はその都度注意喚起を行っているほか、話し合って検討する場を設ける等、対応方法や手順等を理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	年度末に一年間を振り返り良かったこと・反省点・改善点を話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	注意をはらっている。発見した場合はマニュアルをもとに対応している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に注意をはらい点検している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	資料に基づき研修し正しく理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	利用者さんの状況を見極めながら職員間で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居時に家族さんに説明し理解を頂いている。変更があればその都度説明をして理解を頂いている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	社内研修で学んでいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば管理者・ケアマネが対応している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	相談があればいつでも対応出来る体制である。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルに沿って行動出来るように話し合っている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	外部研修に参加したり話し合っているが、定期的な訓練は出来てない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットにまとめ情報を共有している。職員間で検討し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日頃より予測・検討を行い未然に防げるよう努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	職員間で話し合いをし対応を検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	納得して頂けるよう話し合いの場を持ち必要があれば市・町に相談している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	話し合いを重ね迅速な対応に努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	介護相談員の方に定期的に来て頂いている。職員が日々の関わりの中で聞いている。			○	利用者の要望は、家族や介護相談員の協力も得ながら汲み取るよう努めている。家族の要望や意見は、面会時に話しやすい雰囲気を作り、丁寧に聞くよう心がけている。管理者は、日常業務の中で職員の思いを汲み取っており、職員は意見や提案を言いやすい職場環境であると感じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置している。面会に来られた時に声掛けを心掛けている。話しが出来る関係作りにも努めている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	公的な窓口の情報をリビングに掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	管理者を通じ職員の、意見や要望を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日々意見を聞き取り利用者本位の支援に活かせるよう検討している。			○	

愛媛県グループホーム浜っ子

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回 自己評価に取り組んでいる。				運営推進会議で外部評価への協力依頼や報告を行っており、アンケートの回収率は高く、好意的なコメントの記載も多いが、十分に内容が伝わっていない現状が窺える。今後は報告方法を検討し、助言や提案を得てサービス向上につなげられるよう、事業所の取組みのモニターを依頼することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価に取り組むことが、意識統一につながり学習の機会に活かされている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し事業所全体で取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	モニターはしてもらっていない。	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	職員間での確認のみである。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し周知し訓練している。				法人内での災害時避難対応マニュアルを作成して職員に周知している。運営推進会議でも避難訓練について話し合い、定期的に訓練を通して消防署と連携を密にしているが、地域の防災訓練には参加できていない。今後は相互に訓練に参加し合うことで相互理解を深め、協力体制を構築していくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間帯でも安全に避難出来るように訓練している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	年二回消防署立会いのもと訓練をしているが合同の訓練は出来てない。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	参加出来てない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	積極的な発信はしていない。				入居相談には応じているが、地域からの相談ニーズ対応は不十分なため、事業所の相談支援について地域に積極的にPRする取組み等を行って欲しい。地域包括支援センターが実施するグループホーム交流会には参加している。今後は地域関係機関等とネットワークを深めながら地域活動にも積極的に取り組み、地域から頼られケア拠点となる事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば応じる。			△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	地方祭の時に神輿の休憩場所として開放している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学校の体験学習を受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	町や地域包括主催のイベントに参加している。			△	